

事業報告

講座名	希少野生動植物種保護支援員研修会（第2回） 環境学習講座「照葉樹林を歩こう」		
日時	平成27年11月15日（日） 9:30～16:00		
場所	岩国市中央公民館、城山国有林（岩国市）	参加者数	14人（支援員11人、講座3人）

1. スケジュール

9:10～ 9:30	集合、受付
9:30～ 9:35	開講式
9:35～10:10	講義「支援員の役割等について」
10:10～11:10	講義「節分草自生地の保全活動等について」
11:20～12:00	講義「城山国有林について」
12:00～13:15	昼食、休憩 ※自家用車等で吉香公園駐車場へ移動
13:15～16:00	野外観察「城山の照葉樹林の観察」
16:00～	アンケート記入、解散（岩国城付近）

2. 活動内容

午前中は、岩国市中央公民館で、山口県自然保護課田中敦氏による「支援員の役割等について」の講義を行った後、古市節分草保存会の橋本順子氏による「節分草自生地の保全活動等について」、山口森林管理事務所による「城山国有林について」の講義を行った。

午後は、吉香公園駐車場に移動し、岩国城への登山道及び岩国城周辺で樹木等の観察を行った。

◇ 講義

◆ 「支援員の役割等について」

自然保護課 田中敦氏

PWPにより説明（別添資料参照）

◎希少野生動植物種保護支援員について

○支援員の活動は？

- ナベヅルの保護活動など
- 希少野生動植物保護の普及啓発活動
- 自然環境の保全活動への参加
- 動植物の観察会等への参加
- 新規登録への案内

○レッドデータブックやまぐちについて

- 平成13年に作成したRDBの改訂に着手
- 平成30年3月作成を目途に検討委員会で調整中

〈RDB掲載例〉 ツキノワグマ、ナベヅル、オオウラギンヒョウモン、キビヒトリシズカ
ホンシュウジカ



○北九州市におけるツマアカスズメバチの確認について

本年8月に北九州市で確認されたツマアカスズメバチの特徴、見分け方等

◆「節分草自生地の保全活動等について」

講師：橋本順子氏（古市節分草保存会）



・節分草を見つけた由来

2009年4月25日 林さんから聞いた

南限は広島庄原で、山口県にはないと思っていたので始めはウソと思っていたが、写真を見て節分草だとわかり大変驚いた。

・地元の人だけでなく外部の人が関わったので保全活動が

広がり、2月の一般公開も始まった。保存会には地元の人だけでなく、外部の人（目、意見等）が必要で、地元の人だけでは保全活動になっていなかったと思う。

・2010年2月に初めて一般に公開することにした

地元の人あまり見学者は来ない（5～6人程度）と思っていたが、錦川清流線（2両）が人で一杯になり大混雑となった。このため、帰りは3両とした

以後、一般公開は錦川清流線3両で行っており、全員座って移動してもらうため、120人限定（1両当たり40人）にしている。

・自生地の地主は4人

・節分草の生活史（植生等）はわかっていない。

確認することが必要と思い、節分草の種子を蒔いて育てる実験を始めており、いろんな事がわかってきた。

節分草は4月に種を付ける ～ 一つの花に18から20個程度

自生地に近い環境で育てている（水はけの良い土地を好む）

発芽率は2010年（1年目）で90%以上

翌年の1月には芽を出す（1枚葉）

2年目には節分草特有の葉の形になる（冬季の霜柱で何割が枯れる）

4年目から5年目に花を付ける ～ 50%くらい

1つの球根からどのくらいの花を付けるのか不明 〈実験中〉

・2012年から焼き物の植木鉢でも栽培している。

発砲スチロール箱での発芽と比較したところ、スチロール箱の方が20日程度早く発芽した。発砲スチロールの方が温度変化が少ないためと考える（夜間温度が下がらない）

・自生地でも日当たりの良い場所よりも杉林等の陰になった場所の方が早く咲く

杉林では奥の方（日当たりの悪い方）から咲く

石垣の方は日当たりが良いので遅い。外気の温度変化によるものか？

・自生地は夏は草が茂って土地の温度が上がらないので、自生地の環境に合わせるため、日陰で育てている。

・今後の検討

1つの球根からいくつ花をつけるのか？

どのくらい球根は大きくなるのか？同じ球根で何年花が咲くのか？分球するのか？

- ・何故、ここで節分草が生き残れたのかを知ってほしいと思い、節分草の生活史について、2010年より紙芝居を作って説明している。

一般公開で自生地に来た人にも、まず、知ってもらって見てもらうようにしている。

2015年より、錦小学校の児童に紙芝居「節分草を守ったのは誰」を作って説明している。

- ・地元の方は節分草が好きで、皆うれしそうに活動している。（人から言われてやっているのではないで続けている）

◆橋本氏が育てていた球根を出して状態を見てみる。

思ったより深い所に球根があった。

当初は土の上に球根を置いて育てていたの、だんだん潜っていったようだ。

11月の今現在、土の中では既に芽がでており、これまでの自分の思い（まだ目が出ていない）は間違っていた。



◆「城山国有林について」

講師：谷秀治氏（山口森林管理事務所所長）、早田慎司氏（岩国森林事務所森林官）

○林野庁の業務等の説明

- ・日本の森林の3割は国有林

国土の約2/3は森林なので、国土の2割が国有林
760万ha（7.6万km²）

- ・林野庁の職員は5千人（ピーク時は9万人いた）

当時は林業を国がやっていたが、民間に外注したため減少し、今の業務は森林管理のみ

- ・山口森林管理事務所の職員は17人

- ・山口県の国有林は8千haで県土の0.1% 全国的にも少ない

江戸時代に藩有林であったものを明治になって民有林にしたため国有林は2%で、残り98%は民有林。

国有林の5割は山口市にある（滑国有林、長門峡国有林）

- ・滑国有林

滑松は赤い部分が多く、錦帯橋の橋脚や皇居にも使用

激減しており、現在は一才、伐採できない。保護するために平成26年に保存会を設置



◆早田森林官

城山国有林について説明

- ・城山国有林の面積は1,551ha

もともとは吉川家の山林で明治20年に国に返納され
国有林になった。

- ・ヒノキの人工林があり、平成14年より^{ひわだ}檜皮（檜の皮）
を採取している（売却）
出雲大社等の屋根の葺き替えにも使用されている
- ・天然林として利用（一番大きな木で樹齢180年くらい）



【野外観察】「城山の照葉樹林の観察」

講師：橋本順子氏、金丸恵子氏（森林インストラクター山口会：環境パートナー）

- ・オオゴキブリ
日本には約50種類のゴキブリ
家にあるゴキブリはクロゴキブリ、チャバネゴキブリ
など10種
ゴキブリの多くは森林に生息し羽根が退化し飛べない
アカマツやシイ類の倒木に生息
木の皮が剥がれてた頃を好む
森の分解者で自然豊かな土をつくる
世界中のゴキブリの種類は4千から1万以上
- ・ヒノキ、サワラ
葉の裏にYの模様があるのがヒノキ
サワラは蝶のような模様
- ・カンザブロウの木
城山や呉市でした見たことがない
全国的にもレアな木
- ・ヤマモガシ
サツマニシキ（蛾）の幼虫を食す
1種類の植物しか食さない生きもの
（スペシャリストという）
2種類以上の植物を食すものはジェネラリストといい
区別される
- ・ドングリ
城山には13種類のドングリがある
それぞれが城山の中で棲み分けている
ドングリは殻が固くないので中に虫が入りやすいが、
発芽しやすい
シリブカガシ、マテガシイは殻が固いので中に虫は入りに難いが発芽しにくい。
こうした関係を「トレードオフ」という。



- ・タカノツメ

葉が3枚。冬芽が鷹の爪のように曲がっている。

(名前の由来)

標高700mくらいまでしか自生しない。

- ・コシアブラ

葉が5枚 ウコギ科で独特の香りがある。

長野県では栽培している。

種は鳥により散布される。

普通は発芽率30%だが、鳥の中を通ると発芽率は100%で鳥が食べて糞で移動した方が発芽率が良い。

- ・フシノアワブキ

亜熱帯植物 城山が本州では唯一の自生地

主な自生地は韓国、中国（日本では対馬でも自生）

- ・イヌビワ

イヌビワコバチの幼虫と共生している

- ・カゴノキ

樹木の表面の皮が鹿の子模様に剥げるのは、テイカカズラ等のつる性植物に巻かれないようにするため

◇この他に観察した植物

イチイ、イヌガキ、アスナロ、シイモチ、モミノキ

ミミズバイ、エゴノキ、ツブラジ、タマミズキ

キタノタマミズキ、スタジイ、リョウブ

コバンモチ、ウラジロ、シリブカガシ

マテガシイ、シャシャンボ、イヌシゲ、ムクロジ

クスノキ (クスノキから作った樟脳の匂いを嗅ぐ)

シナノアブラギク、アブラギク、ハゼの木



4. まとめ・感想

支援員14人（一般県民3人）の合計17人の参加申込があり、当日は14人（支援員11人、県民3人）の参加となった。

前日からの雨もやみ、吉香公園から登山道を岩国城まで上る観察会を実施した。

城山は、人工林と違い、人の手が入っていないので、シイやカシの木などの広葉樹が繁り、登山道も落ちた葉で覆われ、自然林で癒やされる場所であった。

丁度、紅葉時期であり、観光客も多く、吉香公園周辺の駐車場は皆一杯で、錦帯橋下流の河原などに駐車してもらい徒歩で移動していただいた。

吉香公園駐車場から岩国城までは、登山道をゆっくり歩いて30分程度であり、自然林を散策する良い場所なので、散歩しながら歩く地元の人も見られた。

岩国城にも多くの人々が来られており、ロープウエーも待ち時間がある程であった。

講師の橋本さんや金丸さんは植物だけでなく動物についても詳しく、参加者は樹木だけでなく、オオゴキブリなどの昆虫や冬虫夏草などについても説明を聞き、大変好評であった。